

第 1 回調布飛行場整備検討会 議事概要

日時： 令和 6 年 11 月 7 日（木曜日） 9 時 30 分～11 時 15 分

場所： 都庁第一本庁舎 25 階 109 会議室

委員長の選出

委員の互選により、轟委員を委員長に選出した。

議事

（１）調布飛行場の状況整理

事務局より、調布飛行場の概要、調布飛行場周辺の状況、協定等の履行状況、H27 年墜落事故後の取組、調布飛行場の抱える課題について説明を行った。

（２）プレゼンテーション

轟委員長より、災害時の BCP 対応などを含む、近年の飛行場運営の動向についてのプレゼンテーションがあった。

（３）今後の進め方

事務局より今後の進め方について説明を行った。

（４）意見交換

調布飛行場の老朽施設の対応を進める中で、調布飛行場整備方針や、調布飛行場を正式飛行場化する際の地元三市の受入れ条件の遵守を前提とした上で、都営化後 30 年間の社会情勢等の変化へ対応するとともに、将来を見据え、調布飛行場にどのような機能を導入し、どのような取組を進めるべきかについて、意見交換を実施した。

委員からの主な意見は以下のとおり

- ・調布飛行場は地元の理解の上に成り立っているという背景を踏まえて、正式飛行場化する際の地元市の受入れ条件を遵守するとともに、安全を確保することが検討の前提となる。
- ・新宿や橋本（リニア中央新幹線神奈川県駅設置予定地）との位置関係を踏まえると、調布飛行場は島しょ地域と本州とのハブとしての役割があり、賑わいの創出や観光振興について広域的な視点から考えてほしい。
- ・島しょ地域との間の重要な移動手段である航空路を、地元の理解を得ながら、継続していくことが重要である。
- ・地元地域の方々に親しまれる施設とすることに加えて、島しょ地域の産業振興にも結び付けることが望ましい。

- ・飛行場は一般的に迷惑施設にもなるという中で、どのようにして地域との共生を図るのかという視点も必要である。
- ・防災の観点から、発災時に輸送・人命救助の拠点としての機能を確保すること、交通ネットワークを確保することが重要である。
- ・再生可能エネルギーを日常の飛行場運営から活用していくことは、脱炭素化への対応に加えて、災害時の地域のレジリエンス（強靱さ）向上にも寄与できるのではないか。
- ・今後の検討に当たっては、例えば島しょ地域の意見も含め、様々な立場から意見聴取を行うことが必要と考える。

次回予定

令和7年1月開催予定

以上